

## 体育分野における授業の効果的な指導法 —— 指導形態や場の工夫 ——

### I 主題設定の理由

現在の保健体育分野における授業においては、心身の健全な発育・発達を重視する必要があるとされている。これは日常生活における身体活動（運動の習慣）の二極化や食生活を含めた生活習慣の乱れ、ストレスの増加などの状況から、心身共に鍛え健全な発育・発達を促すことが重要課題とされていることに起因する。

中学保健体育部会では、これまで個に応じた学習体制や生徒が意欲的に学習に取り組む姿勢を育成するため、「指導形態や場の工夫」についての研究を行ってきた。今年度も引き続き生徒個々が課題を設定し、その解決に向けて積極的に取り組み、心身共に鍛えていこうとするまでの手だてを継続して研究していく必要があると考え、本主題を設定した。

### II 研究の内容

#### 1 研究のねらい

- (1) 授業実践を通して、効果的な指導法としての指導形態や場の工夫を考える。
- (2) 先進校の資料検討や情報交換などから研究をしていく。

#### 2 研究の概要

- (1) 年間2回の授業研究を通して、指導形態や場の工夫について考える。  
〔11月「ハンドボール」塩山中学校 大澤 祐子教諭〕  
〔1月「バレーボール」勝沼中学校 三枝 まり子教諭〕
- (2) 各校による指導形態や場の工夫についての取り組みや実践を通しての情報交換、先進校の文献や資料等を参考に研究をおこなう。

#### 3 授業実践：1

- (1) 単元名 球技「ハンドボール」（中学2年生）
- (2) 授業者 塩山中学校 大澤 祐子教諭
- (3) 指導構想

個人（チーム）の技能の課題解決から授業を進める。ゲームを通して個人の技能や集団の技能をどう高めて行くかが重要になってくる。授業の中で、「自分（チーム）の課題」に気づき「課題解決の手だて」を考えて実践し、グループとしてどのようなゲームを展開したいか、またチームの課題を明確にさせ、毎時間目標を持って活動させたい。

- (4) 指導形態の工夫

教材の特性や生徒の実態から「ハンドボールの特性を知り技能を高めながら攻め

方・守り方を工夫してゲームを楽しむ」を目標に授業を進める。集団スポーツではあるが個人技能の課題解決とチームとしての課題解決の両面から授業を進める。授業の流れを「計画-基本・課題練習-ゲーム-振り返り（評価）」とし、反省を生かして課題を解決するよう学習に取り組ませる。

#### (5) 場の設定の工夫

コートを有効に利用し場面ごとのスキルテストを行えるようにする。また技能の習熟段階に応じて場を工夫し、狭い空間でもボールを扱えるようマーカー等を利用しながら、技能練習やゲームができるようにする。

学習形態や資料の工夫としては、個人スキルや課題設定、チーム内での教え合いなど学習におけるポイントをきちんと絞る。また授業内容や発達段階に応じて学習ノートへの記載を考慮する。視聴覚機器を有効的に活用することで「場」を活性化させる。

### 4 授業実践：2

(1) 単元名 球技「バレーボール」（中学1年生）

(2) 授業者 勝沼中学校 三枝 まり子教諭

(3) 指導構想

技能の程度を把握させ、練習やゲームを行い、全体でルールやゲームの仕方を確認していく。また、個人技能の課題解決をしていきながら、協力してチーム力を向上させていけるよう、互いに観察し、助言していく。

(4) 指導形態の工夫

段階を踏んで練習に取り組ませていく。「個人練習-ペアでの練習-班での練習-ゲーム」という授業形態をとり。個人やチームの課題解決のための練習スペースを作り、取り組ませていく。

(5) 場の設定の工夫

バレーコート1面、ソフトバレーボールコート2面、軽量バレーボール使用。  
個人練習ができるよう、練習の場を用意し、つまずきを解消するための活動を行わせる。また、サービスゾーンをサーブが入りやすい位置まで近づけ、返球回数を多くしたりするなど、ルールを工夫することでラリーが続くようにする。

### Ⅲ 成果と課題

#### 1 成果

効果的な指導法として「指導形態や場の工夫」に視点をあて、学校規模や施設により各校が特色ある場の工夫とさらに視聴覚機器や学習資料を有効的に活用することで「場」が活性化された。また各校の実践を通しての情報交換をすることで、個に応じた学習形態など指導法にもフィードバックすることができた。これにより生徒が意欲的に取り組む姿勢にもつながり、とても良い成果が得られた。

今後は、個や集団（班）の技能習熟に応じて、さらに具体的な課題を設定し工夫することが必要になる。

[部長 大澤 祐子]